

EUにおける学校教育プログラム
「コメニウス」の実現過程に関する研究
—ドイツにおける実態調査を中心に—

愛知教育大学 久野弘幸

1

発表の構成

- I. 研究の目的・課題・方法
- II. EU教育政策のフレームワーク
 - (1) EU教育政策の展開
 - (2) EU教育の構造
 - (3) “コメニウス”プログラム
- III. ドイツにおける教育プログラム「コメニウス」の実現過程
 - (1) ベルリン市教育庁調査から
 - (2) コメニウス実施校における事例から
- IV. 成果と課題

2

I. 研究の目的・課題・方法

3

(1) 科学研究費補助研究

- 研究課題
「EU加盟国における統合政策と教育改革の政治力学に関する比較研究 —ヨーロッパ・ディメンションを手がかりに—」

研究期間: 2005-07年度
研究代表: 近藤孝弘(名古屋大学)、
研究員: 柿内真紀(鳥取大学)、園山大祐(大分大学)、
久野弘幸(愛知教育大学)

4

(2) 研究の目的

- 本科学研究の目的は、
「EUと各国政府における教育政策の実現過程に焦点化することにより、大規模な社会実験プロジェクトである“ヨーロッパ統合”において教育分野の統合がどのように機能しているか具体的に解明すること」にある

5

(3) 研究の課題

1. EUの教育におけるヨーロッパ・ディメンションの概念についての再検討
2. その概念に対する加盟各国における解釈および実際の教育政策における運用についての比較考察
3. 1970年代以来のEU教育の展開に対する評価に基づき、2004年の加盟国の増加がヨーロッパという教育政策空間に与えるインパクトの解明を試みる

6

(4) 研究の方法

□ 研究の柱

1. EUの各教育政策の発展状況を施策当初から再確認すること(史的把握)
2. EU加盟国の各教育改革(教育のEU化)の政策実施過程を分析すること(制度把握)
3. 加盟各国における個々の政策の実現状況を具体的に把握すること(現状把握)

7

II. EU教育のフレームワーク

II-1 EU教育の展開

II-2 EU教育の組織

II-3 “コメニウス”プログラム

8

(1) EU教育政策の発展

1971 第1回教育閣僚理事会開催

1974 「教育に関する協力」決議(初めて「決議」を採択)
＜EU委員会と加盟国間の権限をめぐる綱引き＞

1988 「教育におけるヨーロッパの次元」決議
＜個別プログラムの成立・拡充(エラスムス、リングアなど)＞

1995-99 第1次ソクラテス …教育プログラムの統合

2000-06 第2次ソクラテス …教育プログラムの再整理

2007-13 生涯学習プログラム …教育プログラムの体系化

9

(2) 第1次ソクラテス(1995-99)

□ 教育プログラムの統合

普通教育…“ソクラテス”プログラム
職業教育…“レオナルド・ダ・ヴィンチ”

□ 第1次ソクラテス

① エラスムス(高等教育)

② コメニウス(学校教育)
…初めて学校教育分野をEU教育政策に実現

③ リングア(外国語教育)

④ (名称なし)(成人教育/遠隔教育)

10

(3) 第2次ソクラテス(2000-06)

□ 第2次ソクラテス

- ① コメニウス(学校教育)
- ② エラスムス(高等教育)
- ③ グルンドヴィヒ(成人教育・生涯学習)
- ④ リングア(外国語学習)
- ⑤ ミネルヴァ(遠隔教育/情報技術)

→①～③を人の成長段階に合わせて再整理

11

(4) “生涯学習プログラム”(2007-13)

□ “ソクラテス”と“レオナルド”の統合による体系化

→職業訓練と教育の間の連携の欠如の克服

□ 4つのサブ・プログラム

- ① コメニウス(学校教育)
- ② エラスムス(高等教育)
- ③ グルンドヴィヒ(成人教育)
- ④ レオナルド(職業教育)

□ 言語領域(“リングア”)の発展的解消

→①～③へ繰り込み、各教育段階にふさわしい方法で外国語教育支援を行う

12

II. EU教育のフレームワーク

- II-1 EU教育の展開
- II-2 EU教育の組織
- II-3 “コメニウス”プログラム

13

(1)EU教育の組織

- EU教育政策実施に関わる3つのレベル

EUレベル

…EU第22総局(教育・青年問題担当)

加盟国・連邦州レベル

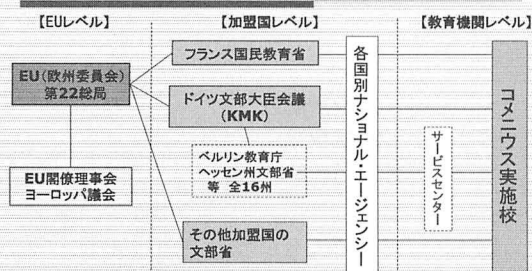
…教育省、州文部省 等

教育機関レベル

…初等・中等学校、職業学校、大学 等

14

(2)モデル図



15

(3)ナショナル・エージェンシー

- EU教育政策の実施にあたり、各加盟国はソクラテスおよびレオナルドの連絡窓口となる機関を設ける。(ナショナル・エージェンシー)
- フランス
“Agence Socrates & Leonardo France” (ポルドー市)
→2000年にレオナルド部門がパリより移転・統合される
- ドイツ
“Pädagogischer Austauschdienst(PAD)” (ボン市)
→KMK内に置かれ、ソクラテス部門のみ担当。レオナルドは、連邦職業教育研究所が担当。

16

II. EU教育のフレームワーク

- II-1 EU教育の展開
- II-2 EU教育の組織
- II-3 “コメニウス”プログラム

17

(1)学校教育分野 “コメニウス”

- コメニウス・プログラムの目的

様々な学校種の生徒たち、教師および教員を目指す学生の学習内容、方法、外国語に関する理解を深めるとともに、彼らの異文化間学習ならびにヨーロッパ意識の促進を図ること

18

(2) コメニウスの3領域

- コメニウス1・・・学校間パートナーシップ形成
(ヨーロッパテーマもしくは外国語学習を目的として1～3年間
 継続される学校間交流、教師の引率による生徒の直接交流)
- コメニウス2・・・教員養成・現職教育の支援
(ヨーロッパテーマもしくは外国語学習を目的とした教員および
 教員養成課程にある学生の支援、他の加盟国における授業
 実習など)
- コメニウス3・・・コメニウス参加校のフォローアップ
(コメニウス1、2に参加した学校における人的ネットワークの
 維持・発展)

19

(3) 「コメニウス1」の概要

- コメニウス3領域のうち、加盟国の学校が自ら助成申請し支援を得られる「コメニウス1」が中心となる
- ✦ コメニウス1-1 「学校交流プロジェクト」
・・・ヨーロッパをテーマにした多国間生徒交流*
- ✦ コメニウス1-2 「学校改革プロジェクト」
・・・学校改革のための学校間交流*
- ✦ コメニウス1-3 「外国語学習プロジェクト」
・・・外国語学習のための二国間交流
*1-3を除き、原則として3カ国以上の参加

20

Ⅲ. ドイツにおけるEU学校教育プログラム「コメニウス」の実現過程

- Ⅲ-1 ベルリン市教育庁調査から
- Ⅲ-2 コメニウス実施校(コペルニクス校)における事例から

21

Ⅲ-1 ベルリン市教育庁調査から

- (1) 予算配分
- (2) 採択
- (3) パートナー校

22

(1) 予算配分(2006年)

- ドイツへの配分予算
コメニウス予算総額 7,477,758ユーロ
 (1€=156円として、約11億6600万円)
- 「ケーニヒスシュタイン基準*」による配分
(ベルリンは、4.95573)で計算すると、ベルリンに配
 分されたコメニウス予算は、370,579ユーロとなる。
 (約5,781万円)

*ケーニヒスシュタイン基準とは、各種の予算等を州ごとに配分する際の標準となる値。税收及び人口を基準に毎年見直される。16州全体で100となるように決められている。

23

(1) 予算配分の内訳 —他州比較—

- ベルリン市及び他州のコメニウス予算の配分
(K基準-ベルリン5:プレーメン0,9:ノルラインW.21)
- 【学校交流6:外国語学習2:学校改革2】の割合で配分される

	学校交流	外国語	学校改革	合計
ベルリン	261,920	43,653	65,006	370,579
プレーメン (最小州)	49,531	8,255	12,293	70,079
NRW (最大州)	1,143,562	190,594	283,820	1,617,976

24

(1) 予算配分 ー 執行額比較 ー

- 予算の執行割合は、80%である。
- 「外国語学習」が執行額が少ない(応募・採択とも少ない)。「学校改革」が執行額ベースで27.2%となる

	学校交流	外国語	学校改革	合計
予算額	261,920	43,653	65,006	370,579
執行額	188,949	26,334	80,610	295,893
差額	72,971	17,319	-15,604	74,686

25

(2) 採択 ー 分野別採択率 ー

- 交流分野別の申請件数、採択件数、採択率、一件あたりの助成金額は次のようになる

	学校交流	外国語	学校改革	合計
申請件数	41	3	14	58件
採択件数	34	2	13	49件
採択率	82.9%	66.6%	92.9%	84.5%
平均助成額	4,600 € (71万円)	13,167 € (200万円)	6,200 € (97万円)	

26

(2) 採択 ー 採択の基準 ー

- プロジェクトの採点方法は、「チェックリスト」による次の10項目の審査で点数化される。(国内共通)
 - 「*」のついた項目は、重点基準として2倍が加点される。
- ① 目的および期待される効果が明確に定義されている
 - ② 具体的で実現可能な計画が示されている(*)
 - ③ 明確で現実的な活動スケジュールである
 - ④ 成果物や成果が計画されている
 - ⑤ 適切な評価計画が立てられている

27

(2) 採択 続き

- ⑥ 成果の普及に対する適切な考えが示されている
- ⑦ 参加校の間に定期的な協力・連絡体制が取られている(*)
- ⑧ 有意義で先進的な新技術の活用が組み込まれている
(次の2項目は、学校教育・外国語学習プログラムのみ)
- ⑨ 生徒の活発な参加と具体的な活動が示されている(*)
- ⑩ 学習指導要領と関連づけられている

28

(3) パートナー校 ー 交流校の数 ー

- 交流を持つパートナー校の数は、自校を含む4カ国が最も多い。(規定では、3カ国以上)
- 中には、12校との交流を行う例も見られる。

	3校	4校	5校	6校	12校	計
学校交流	7	14	8	5	0	34
学校改革	2	8	2	1	1	13

29

(3) パートナー校 ー 国別件数 ー

- ベルリン市で採択されたプロジェクトのパートナー国は、多い順に次の通り。(総数172校)

25件	UK	7件	フランス、スウェーデン、オーストリア
18件	イタリア	6件	フィンランド
15件	トルコ	5件	オランダ、ドイツ、ベルギー、ルーマニア、ブルガリア
14件	ポーランド	4件	ポルトガル、ギリシア、エストニア、デンマーク
12件	スペイン	3件	ノルウェー、リトアニア、チェコ、ハンガリー
2件	ラトビア	1件	ルクセンブルク、アイルランド、スロバキア、マルタ、キプロス、リヒテンシュタイン

(3) パートナー校 ー国別件数ー

- パートナー校の特色
UK・・・英語での交流としてニーズが高い
トルコ・・・外国籍生徒の母国として
ポーランド・・・東の隣国として交流の経験あり
- ベルリンとしての特色
相対的に西欧よりも東欧との結びつきが強い
(バルト三国、ルーマニア、ブルガリア、ハンガリー)

31

Ⅲ. ドイツにおけるEU学校教育プログラム 「コメニウス」の実現過程

- Ⅲ-1 ベルリン市教育庁調査から
- Ⅲ-2 コメニウス実施校(コペルニクス校)における事例から

32

(1) コペルニクス校における交流活動

- コペルニクス上級学校
2003年 コメニウス1-1を取得
テーマ: Young in Europe
実施年度: 2004, 05, 06年度
- 参加校(4カ国・4校)
ブロンドビー校(コペンハーゲン/デンマーク)
クラスカ校(ブラハ/チェコ)
ポーヒクール校(ヴォール/エストニア)
コペルニクス校(ベルリン/ドイツ)

33

(2) 年度別予算

- 予算
2004・・・3,920ユーロ(約62万円)
2005・・・6,830ユーロ(約109万円)
2006・・・6,000ユーロ(約96万円)
合計・・・16,750ユーロ(約267万円)

34

(3) 直接交流

- 直接訪問
 - 準備 03年12月 コペンハーゲン
 - 04年度 04年9月 ブラハ
05年1月 ベルリン
 - 05年度 05年9月 ヴォール
06年1月 ブラハ
 - 06年度 06年9月 コペンハーゲン
07年4月 ベルリン
07年9月 コペンハーゲン
→Multi Cult Festival

35

(4) 3年間の交流の概要

- 2004年度
テーマ「Close-by」
→ビデオレター、クリスマスカードによる交流
- 2005年度
テーマ「The Country」
→自国紹介のカラーージュ作品製作、少人数の生徒による交流
- 2006年度
テーマ「Peace」(コペンハーゲン)
→他国理解からテーマ性のある合同活動へ
4カ国から200余名の生徒がコペンハーゲンに集う

36

(5) 費用支出－2005年度の会計報告から－

□ 2005年度(ヴォール&ブラハでの交流)

1. 外国語学習費	0,00	} 計 5,026,76 ユーロ (予算:6,830€)
2. 教材教具費	493,72	
3. 翻訳費	0,00	
4. 文書作成費	148,60	
5. ソフト購入費	178,98	
6. 事務管理費	40,00	
7. 旅費①(ヴォール)	3012,18	
8. 旅費②(ブラハ)	1153,28	

37

(6) 課題・問題点

1. 費用の用途

…コメニウス予算からは、生徒の訪問費用を支出することができない。各校は得られた補助金からやりくりし、生徒に一部の補助をしている。

2. 国による参加人数の偏り

…エストニアは、遠方であり物価水準も異なる。西欧で交流がある場合、エストニアからの参加は常に少数にとどまっていた。

38

IV. 成果と課題

39

(1) 成果

□ 成果

1. これまで実態が明らかでなかった「コメニウス」の実現過程を一部ではあるが具体的に明らかにすることができた
2. 特に、連邦制国家ドイツにおける採択過程、予算執行、学校間交流の具体的な姿を明らかにすることができた

40

(2) 課題

1. 他の共同研究者が行った他のEU加盟国の調査結果と突き合わせ、加盟国間の政策実現過程の具体ならびに特質と比較することにより、各国の独自性と共通性を明らかにすること(比較研究的考察)
2. EU教育政策の今後の展開をさらに注視するとともに、その意義について政策的、市民形成論的、多文化共生論的な吟味を行うこと(社会形成論的考察)
3. このようなプロジェクト型学校改善の試みが生徒、教師にどのような影響をもたらすか吟味すること(実践研究的考察)

41